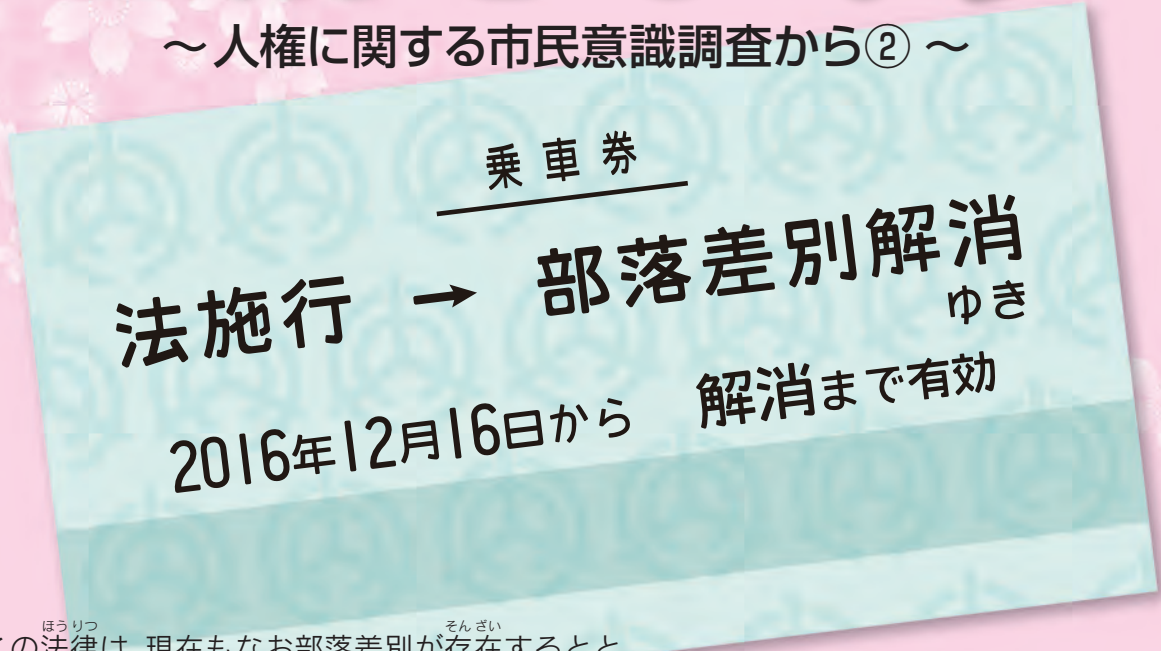


差別をなくす

～人権に関する市民意識調査から②～



(目的)

第1条 この法律は、現在もなお部落差別が存在するともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないものであるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題であることに鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的とする。

2016年12月16日
部落差別解消推進法
が施行されました。



人権に関する 市民意識調査

大分市民の人権・同和問題に関する意識の現状を把握・分析し、今後の人権教育・啓発を有効に進めるための調査で、2010年から5年ごとに実施しています。



みんなのねがい第81集
『わからない』に力を!!
～人権に関する市民意識調査から①～

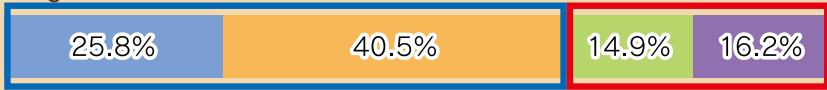
①差別はなくならないって本当!?



どんなに努力しても
差別をなくすことは難しい



2.6%



■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない
■ そう思わない ■ 無回答・不明

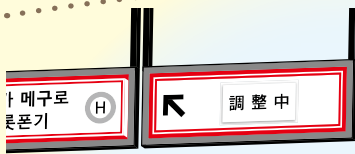
2020年度の「人権に関する市民意識調査」の結果から、「差別をなくす」には何が必要なのかを考えてみましょう。
まずは、この結果を見て。



そんなに簡単じゃないよ。
31.1%の人は「なくせる」って思っているんだよ。そして、差別をなくす行動で、「差別はなくなる」と証明できることが、わたしたちの身近でも実際にたくさん起っているよ。



「そう思う」25.8%「どちらかと言えばそう思う」40.5%を合わせた割合は、66.3%。
やっぱり、差別をなくすことは難しいのかな?」



駅のロシア語の案内表示を紙で隠していたが、後日その紙は外された。



新型コロナウイルス感染症に感染した人への誹謗中傷は少なくなっている。



やっぱり、わたしは諦めようかな?」
差別をなくす行動があ。確かにそういう人が増えていけば、差別をなくすことにつながっていきそうだよ。



残念なことだけれど、差別は起こっている。差別をされた人のことを考えるとつらい...でも、差別を許さず、なくす行動をとる人の存在で、一歩ずつ確実に差別をなくすことはできているでしょ。



②差別をなくす行動の根底には何が!?

なるほど!おかしさに気付くことか。そして、差別をされた人の気持ちになって考えることも大切だね。それが、「差別は許さない」と声をあげることにつながっていくんだよね。

どんなに^{たいさく}対策を コロナ差別をすること

しても、感染してしまう時はある。



おかしさに気付くと...

必要以上に、感染者を特定する必要はない。



まずは、差別のおかしさに気付くことが大切よ。



感染した人は、患者だよ。

体調はどう?



言語に罪はない。

特定の国の人をひとまとめにして見るなんて...

おかしさに気付くと...

差別だよ



「国籍」は選べないことなのに...

おかしよ



ところで...様々な差別があるけれど、部落差別の解消に向けて大分市民はどう考えているのかな?

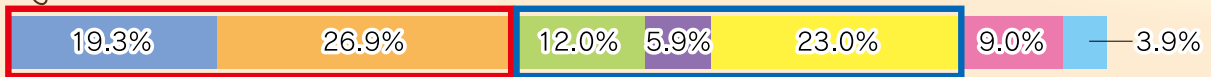
ロシア語の案内表示を隠すこと



許されない



あなたは、同和地区(被差別部落)の人たちに対する結婚差別や就職差別は、将来なくすことができますか?



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない
 ■ わからない ■ 差別が起こっていることを知らない ■ 無回答・不明

部落差別について、もう詳しく知りたいな。

部落差別は許されないが、解消のために何をしたらいいのかわからないから、「なくせないのでは...」という考え方につながっているのかもしれないね。
 部落差別も、差別のおかしさに気付いて、行動する人がいれば...そして、そんな人が増えていけばきっとなにか変わるはずだよ。
 部落差別について、もう詳しく知りたいな。



「そう思う」19.3%、「どちらかといえばそう思う」26.9%の割合を合わせると46.2%で約半数が、なくせると思うている。
 でも、「そう思わない」5.9%、「どちらかといえばそう思わない」12.0%、「わからない」23.0%の割合を合わせると40.9%。
 あらゆる人が、部落差別のおかしさに気付いていくことが大切なんじゃないかな。

③ 部落差別はする人がいるから、存在する！

そうね。差別って理不尽よね。下の図を見て。
 大分市では、人権に関する8つの重要課題を位置付けて、差別の解消に向けた取組を進めているのよ。どの課題にも共通していることは、生まれ、性別、年齢など本人に責任のないことによって被害を受け、苦しんでいる人がいるということなの。



部落差別とは

明治時代になって、江戸時代の身分制度が廃止されました。しかし、それ以降も生まれた場所や住んでいる場所などの理由にした差別が現在も続いています。これを部落差別といいます。

「生まれ」による差別って理不尽だよ。



部落差別同和問題

様々な人権問題

女性

子ども

高齢者

障がい者

外国人

HIV感染者・ハンセン病回復者等

大分市人権教育・啓発基本計画 (改定版)

策定 2004(平成16)年12月
 改定 2017(平成29)年4月

大分市では、「市民一人ひとりが互いに人権を尊重し合い、共に喜びを実感できる地域社会の実現」をめざして大分市人権教育・啓発基本計画を策定し、差別をなくす取組を推進しています。

なるほど！「本人に責任のないこと」かあ。これは差別に気づくための大切なひとつの「ものさし」だね。そして、差別の解消に向けては、性別や年齢、障がいなどの違いを認め合うことも大切ってことだよな。
 あれっ。でも、部落差別って生まれた場所や住んでいる場所が理由で起こるんだよ…？どつやって、差別される人、つまり被差別部落出身者ってわかるのかな？



そつ、そして差別をする理由のあいまいさをもっとわかる調査があるから、もう少し詳しく見てみましょう。



差別する人が、差別される人をつくりだしているってこと!!

差別する人が、興味本位や深く考えずに、あるいは悪意を持って調べて探したり、他人に広めたりしなければわからないはずよね。性別や年齢、障がいがあるかないかなどの違いは、全てではないにしてもある程度わかるけれど…。つまり、部落差別は差別する人がいるから、存在しているということよ。

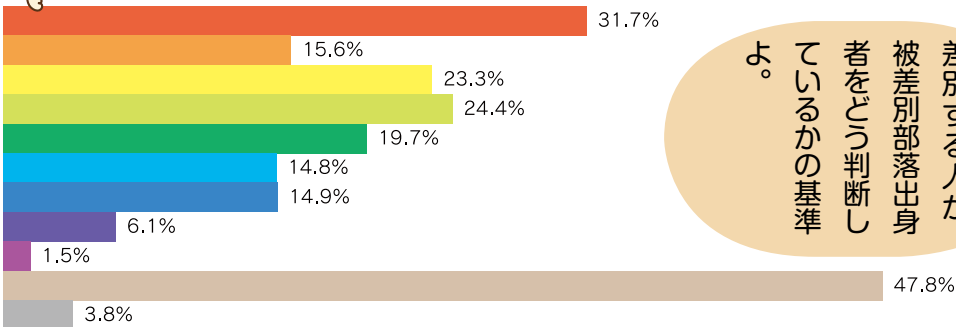


④差別はされる人の問題ではなく、する人の問題！



あなたは、世間ではどのようなことで

同和地区(被差別部落)出身者と判断していると思いますか？



- 本人が現在、同和地区(被差別部落)に住んでいる
- 本人が過去に同和地区(被差別部落)に住んだことがある
- 本人の本籍地が同和地区(被差別部落)である
- 本人の出生地が同和地区(被差別部落)である
- 父母あるいは祖父母が同和地区(被差別部落)に住んでいる
- 父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区(被差別部落)である
- 父母あるいは祖父母の出生地が同和地区(被差別部落)である
- 職業によって判断している
- その他
- 無回答・不明
- わからない

差別する人が、被差別部落出身者をご判断しているかの基準よ。



そうよ。差別する人が、差別される対象をそれぞれの判断基準でつくりだしている…。つまり、部落差別は一人一人が頭の中でつくり続けている差別なの。このことにあらゆる人が気付いていくことが、差別解消の第一歩よ。

そして、正しいことをきちんと学んでいけば、一人一人が頭の中でつくりだすことなら変えられる。



「わからな」が47.8%で一番割合が高い。あとはそれぞれの項目が15〜30%くらいの割合か…。えっ、これって人によって判断基準がバラバラってことなの？

そうね。学びがどんどんと変わっていく。差別とは何か、何が差別を生み出すのか、思いこみや決めつけ、「昔から」「みんなが言っているから」という意識、部落差別についても起源や歴史、現状、差別をなくす取組…

一緒に学びたい方はこちら



学びを深める資料はこちら

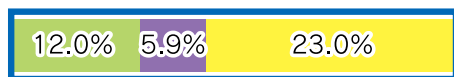
うん。つまり、部落差別は、わたしが変わることで「なくせる」「いや」なくす「ことができるんだね。」

このことに、下のグラフの人たちが気付いていけば…

そして、差別を許さず、なくすための行動を取る人が増えていけば…きっと。



あなたは、同和地区(被差別部落)の人たちに対する結婚差別や就職差別は、将来なくすことができると思いますか



- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない
- わからない

⑤差別をなくす

「今度は私の出番」

昨年の8月、叔父の初盆おじ はつぼんでした。父の弟で、曲がったことが大嫌いな、頼りになる叔父でした。叔父との思い出の中で、印象に残っていることがあります。それは、私が高2の頃、姉の結婚相手が被差別部落出身であるとわかった時のことです。姉にお付き合いをしている人がいることは、両親よりも早く知っていました。その人と姉と一緒に食事に行ったり、遊んでもらったり、「この人がお義兄ちゃんになってくれたらいいなあ」とずっと思っていました。



8月初旬の暑い日、その人が姉と一緒に両親に会いに来て、自分が被差別部

落出身であることを打ち明けたのです。重苦しい空気が漂っていたのをはっきりと覚えています。両親は何も言わず、私はそんな両親に対して苛立たしさを感じていました。「生まれたところで差別をするのはおかしい」と思っていたからです。でも、両親は意思表示をすることはなく、二人は帰りました。

お盆に叔父が帰省した時、両親は叔父に姉の結婚について相談をしました。叔父は腕組みをしたまま「兄ちゃんは間違っどる。二人は心臓がはりさけんばかりの思いで挨拶にきた。それに応えないなんて。子どもを応援するのが親じゃろうが」と言ったのです。父親は、声を荒げ、「そんなことはわかっどる。でも、妹が差別を受けるかもしれん。結婚にも影響

があるかもしれんじやろ」と私を見たのです。

叔父は、私に「なあ、お父ちゃんは、あんなふうと言っどるが、お前は、どう思う」とたずねてきたのです。突然のことで驚きましたが、「もし将来、私のお付き合いしている人が、お姉ちゃんのパートナーのことを理由に結婚できないなんて言うなら、そんな人こっちからお断りよ」と言ったのです。



叔父は、「よく言った」と私の肩をポンとたたきました。

そして、父に向かって、「差別をされている人が肩身の狭い思いをして、差別をする人が大手を振って歩く社会は間違いじゃ。小さいころ、いつもいじめっ子から俺を守ってくれたやないか。同じように今度は二人を守ろうや」と言ったのです。父は、深呼吸しながら、「そうやなあ、お前の言う通りじゃ」と答えたのです。それから、しばらくたった9月に両親は姉の結婚相手に会いにいったのです。

あれから数十年が経ちました。私も部落差別については、お義兄さんから体験をもとにした話を聴きながら、ずいぶん勉強してきたつもりです。私の子どももあと数年もたてば、結婚を考えてもおかしくないような年齢になります。「今度は私の番だね」叔父の写真をみながら、そう叔父に話し掛けたのです。

1965年に同和对策審議会答申たいさくしん ぎ かいとうしんが出されて57年が過ぎました。答申には、「結婚差別が一番乗り越えがたい壁かべ」であると書かれてあります。しかし、大人が部落差別についての学びを土台として、差別のおかしさに気付き、差別は許さないと行動することにより、一番「止めることのできる差別」とも言えるのではないのでしょうか。

確かな認識を持ち、行動すること・・・「人を差別する人間」になるのか、「差別をなくそうとする人間」になるのかを問われているのです。

豊かな心を育む人権・同和教育